

私のおすすめ

「ベル・エポックの申し子」ドビュッシー

図書

大学院音楽研究科博士後期課程音楽研究専攻 1年 高徳真理

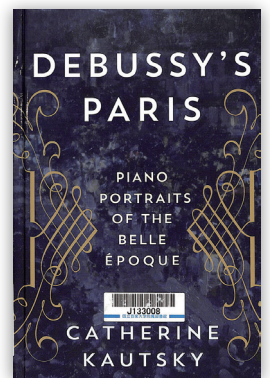
ドビュッシーが生まれたのは1862年。普仏戦争後に青春を迎え第一次世界大戦勃発後の1918年に亡くなっています。その活動期はパリが栄華を極めた「ベル・エポック」にすっぽり収まり、同時代の芸術潮流、文化的動向に大きく影響を受けたドビュッシーはまさに「ベル・エポック」の申し子と言えるのではないのでしょうか。本書に登場するのは、ピエロ、サーカス、ケーキウォーク、ロイ・フラーのダンス、ギリシャの彫刻、金髪の乙女、日本の版画等々、「ベル・エポック」期の様々な芸術、文化的潮流です。著者Kautskyは、ドビュッシーの作品に影響を与えたこれらの潮流を取り上げ、楽曲との関係やその背景を考察しています。画像や写真も豊富で、まるで当時のパリの街角にタイムスリップしたような楽しさを味わえます。

それにしても、ドビュッシーの好奇心は何と旺盛なのでしょう。次々と新しいものをキャッチして、それらを養分に自らの音楽を創作しています。ミュージックホールでパリっ子たちの度肝を抜いた「ミンストレル」「ケーキウォーク」は、『子供の領分』〈ゴリウオーグ

のケーキウォーク)や『前奏曲集』第2巻〈風変わりなラヴィーナ将軍)を誕生させました。ジャポニズムの潮流を背景にドビュッシー自ら所有した日本の蒔絵は、『映像』第2集〈金の魚)の靈感源となったのです。また、ユーモラスでメランコリックなコメディヤ・デラルテの道化役「ピエロ」や、薄い絹と照明を駆使したパフォーマンスで一世を風靡したアメリカ人ダンサー、ロイ・フラーもドビュッシーを魅了したようです。ロイ・フラーのスカートダンスは『前奏曲集』第1巻〈帆)に影響を与えたと言われています。もちろん世紀末の神秘的でダークな世界はドビュッシーの代名詞でもあり、エドガー・アラン・ポーの『アッシャー家の没落』の音楽創作を熱望したことは知られています。

本書を読むと、あらゆる異国的なものを吸収し、それらを養分にして己の音楽を創造していったドビュッシーの「コスモポリタン」の一面も垣間見ることができます。是非ご一読ください。

『Debussy's Paris : piano portraits of the belle époque』Catherine Kautsky Rowman & Littlefield c2017 請求番号●J133-008



たかたく まり ● 最近のマイブームはハーブとスパイスを使った料理と、運動不足解消のためのウォーキングです。

ただ意味に耳をふさぎ

図書

音楽文化教育学科音楽情報専修 4年 高河誠太郎

この本は、谷川俊太郎の「聴く」ことにまつわる詩集です。音楽に関連する詩も多く、著者の音楽体験にまつわる詩から、まるで音楽そのものが語りかけてくるような詩、あるいは詩と音楽についての考察など、様々な視点で音楽について語られています。特に谷川俊太郎と若い頃から友人関係にあった武満徹についての文章なども収録されていることもあり、おすすめに選びました。

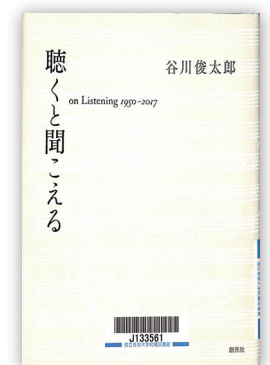
この詩集では度々「沈黙」という言葉が使われます。人間によって創られた詩や音楽は、沈黙を破り、沈黙と対峙するように生まれるけれど、やがて再び沈黙に帰っていく。沈黙は、かえって詩や音楽とつながりの深いものであるようです。作曲家、芥川也寸志も、『音楽の基礎』の冒頭で、似た意味のことを言っています。作曲家は静寂の美を認め、しかしそれに対峙する美として音楽を生み出すのだと。言葉か音かの違いはあっても、沈黙を破って紡がれた言葉や音を体験するという点で詩も音楽も共通しているのでしょう。

そして谷川俊太郎は、詩や音楽を読み、聴くことは、「人間を縛る意味から解き放たれたその無垢」に耳を澄ませることであり、その

ように集中して読み、また聴くことで「聞こえる」ものがあるのだと言います。

ここに収められている詩は、どれも短いものですが、言葉の1つ1つが様々な記憶やイメージを呼び起こし、それらが頭の中で反響しあってこだまのように響いていくように感じます。また読み終えた時、それらが頭の外へ溶け出して世界がこれまでと違って見えてくるようです。それは注意深く選ばれた言葉が丁寧に編まれ、数少ない言葉によって広く、開かれた世界が広がっているということだと思います。著者はぎっと、音や言葉をゆっくり咀嚼するように聴いているのでしょう。

ならば私たちにとって身近な「音」というものを、果たしてどれほど注意深く聴くことができているだろう、そんな疑問が湧いてきます。ここにある物の、その向こう側にあることを聞き取る自分でありたい、そう思わせてくれる一冊です。



『聴くと聞こえる on Listening 1950-2007』谷川俊太郎 創元社 2018 請求番号●J133-561

たかがわ せいたろう ● 近くの居酒屋の看板に“クロコダイル前足の塩焼き”なるものが掲載されており若干興味を惹かれています。